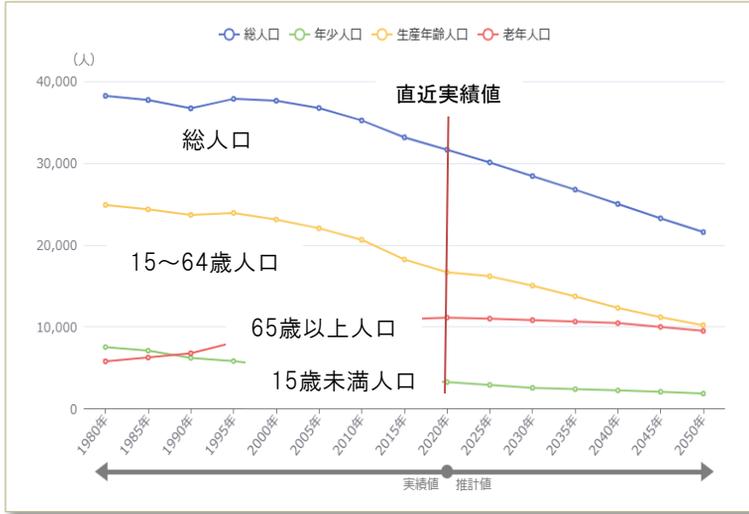


人口



* 人口マップ→人口構成→人口推移

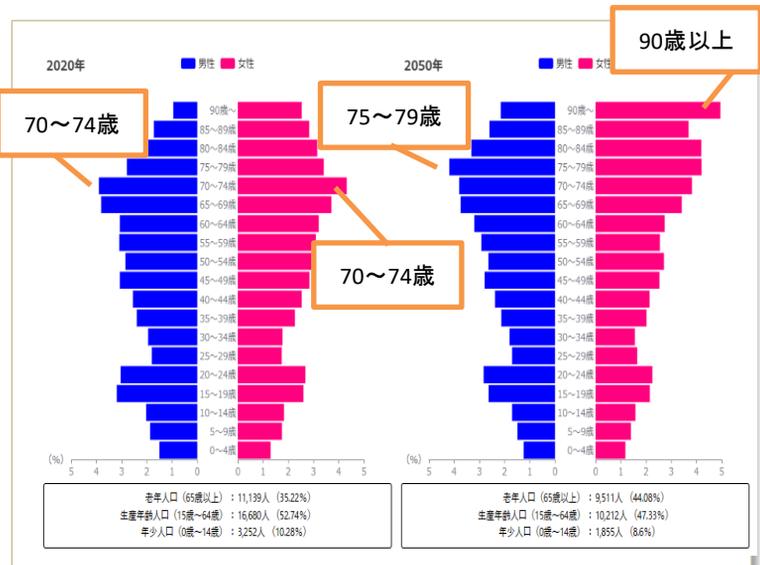
人口ピラミッド（2020年）

現在と将来の年齢別人口構成を示したグラフである。年少人口の割合をみると、2020年の10.28%から2050年には8.6%と10%を下回る。

一方、生産年齢人口は2020年の52.74%から2050年には47.33%まで低下する見込みであるが緩やかな減少に留まる。また女性は高齢割合が2050年に大幅に増進する見通し。

出典：総務省「国勢調査」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」

* 人口マップ→人口構成→人口ピラミッド



年齢別人口推移（2020年）

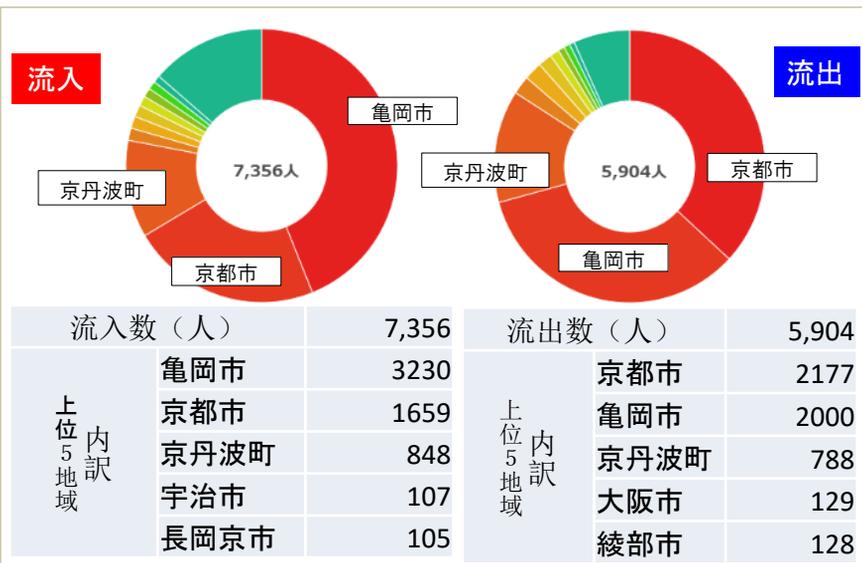
直近の実績値となる2020年の人口は31,629人。1995年の37,841人から大きく減少している。

将来人口をみると、今後も減少が続く見込みである。

年齢別に今後の傾向をみると、年少人口と生産年齢人口は減少傾向、老年人口は2025年まで増加後、横ばいに転じることが予想されている。

※ 年少人口は15歳未満、生産年齢人口は15～64歳
老年人口は65歳以上をさす

出典：総務省「国勢調査」、厚労省「人口動態調査」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」



* 人口マップ→通勤通学人口分析→地域間流動（グラフ）

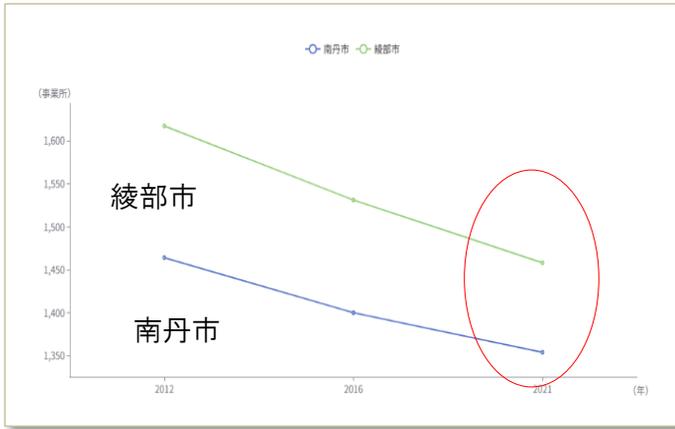
流入出者の地域別構成（2020年）

通勤者・通学者で見る流入出者の地域別構成は、流入者では亀岡市が圧倒的に多く3,230人。一方、流出者では京都市2,177人、亀岡市2,000人と多い状況。全体を通してみると1,452人の流入超過となっており、通勤等で南丹市に通う人が多いことが読み取れる。

出典：総務省「国勢調査」

産業構造

対象地域：南丹市
比較地域：綾部市 ※人口数類似



事業所数の推移 (2021年)

2021年の事業所数は1,354事業所である。9年前の2012年より110事業所減少している。人口数が類似する綾部市の推移も概ね同様の傾向である。

* 産業構造マップ→産業構造分析→推移 (全産業)
→事業所数

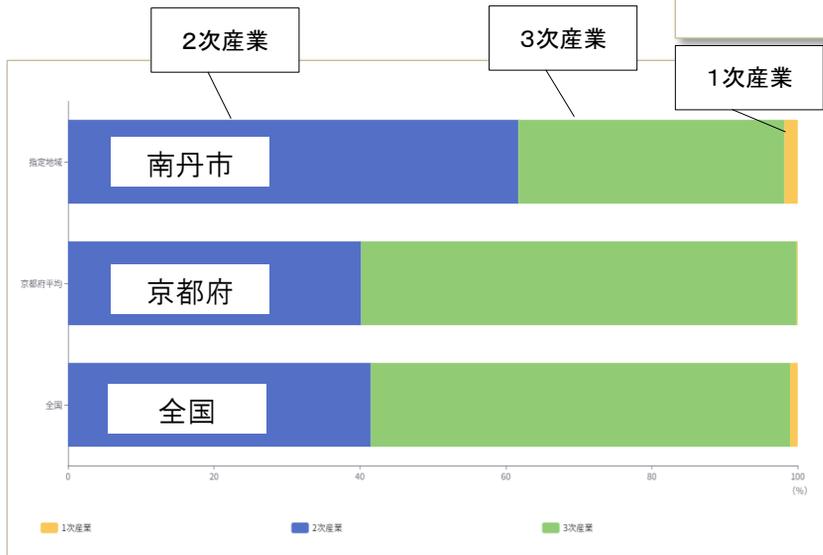
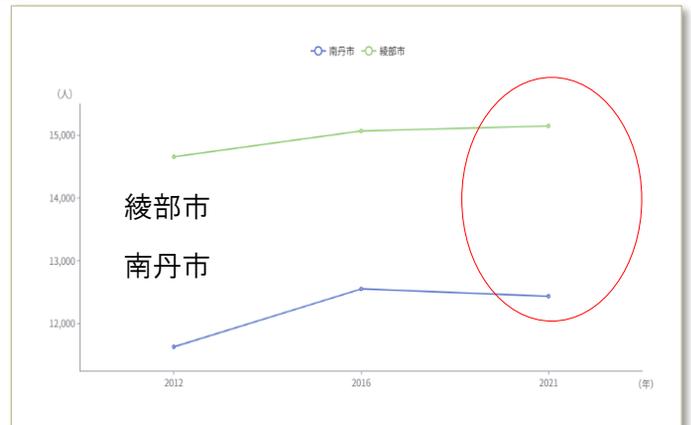
出典：総務省・経済産業省「経済センサス活動調査」 総務省・経済産業省「経済構造実態調査 (産業横断調査)」

従業者数の推移 (2021年)

2021年の従業者数は12,436人である。9年前の2012年と比較して805人増加している。一方、綾部市は488人の増加となる。

* 産業構造マップ→産業構造分析→推移 (全産業)
→従業者数

出典：総務省・経済産業省「経済センサス活動調査」 総務省・経済産業省「経済構造実態調査 (産業横断調査)」



地域内産業の構成割合 (生産額・総額) (2022年)

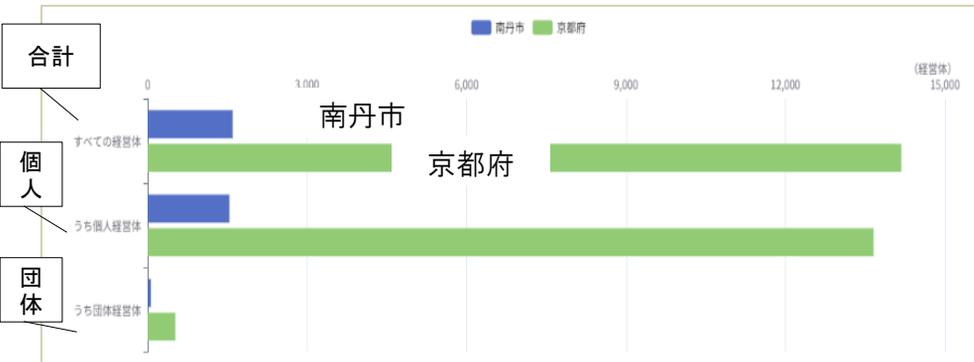
産業の構成割合を府および全国と比較したグラフである。全国と京都府全体との比較で、第2次産業の割合が高いのが特徴であり、1次産業の割合も相対的に高い。

* 地域経済循環マップ→生産分析
→地域内産業の構成を見る
→構成割合をグラフで見る

出典：環境省「地域産業連関表」、「地域経済計算」(株式会社価値総合研究所(日本政策投資銀行グループ)受託作成)

農業経営体の割合 (2020年)

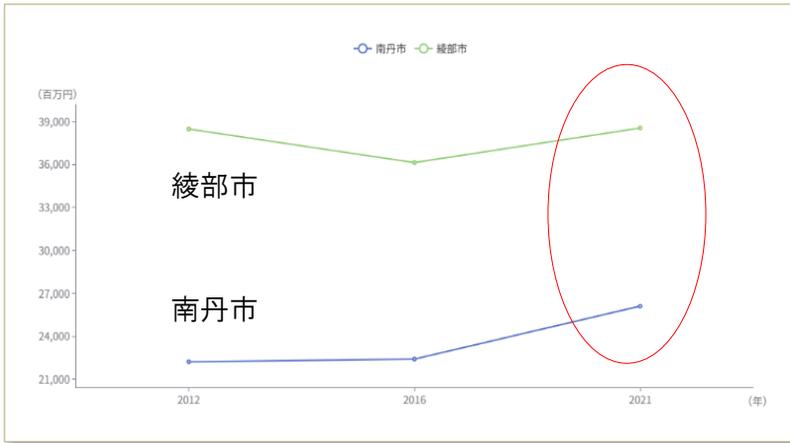
京都府内の農業経営体のうち、南丹市の占める割合は11.3%となり、団体(法人含む)及び個人共に同様の割合となる。上図のとおり1次産業の割合が高いのが見て取れる。



* 農林業漁業マップ→農業経営体分析→経営体数→グラフ

出典：農林水産省「農林業センサス」

付加価値額



付加価値額の推移 (2021年)

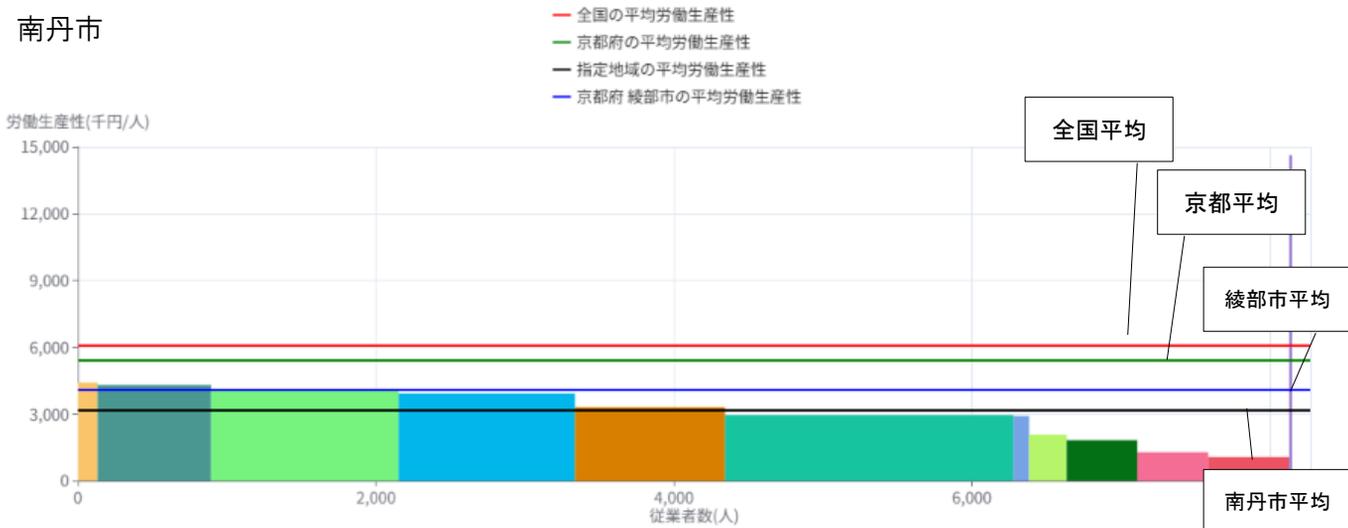
企業が新たに生み出す付加価値額（営業利益等）について、**2021年は26,102百万円**であり**2012年と比較して3,884百万円**の新たな価値を生み出している。一方、**綾部市は2012年とほぼ同額**であり、南丹市と綾部市の差は縮まっていると言える。

* 産業構造マップ→産業構造分析→推移（全産業）→付加価値額

出典：総務省・経済産業省「経済センサスー活動調査」 総務省・経済産業省「経済構造実態調査（産業横断調査）」

労働生産性

南丹市



従業者と労働生産性から見る業種別付加価値額 (2021年)

労働生産性とは従業者一人当たりの付加価値額（営業利益等）を言い、付加価値額を従業者で除したものとなる。これは労働効率性を計る尺度であり、労働生産性が高い場合は投入される労働力が効率的に利用されていると言える。日本の労働生産性はOECD加盟38カ国中下位に近い位置にあり改善を要する国の一つだが、2021年で**全国平均6,095千円/人**であった。一方、**南丹市の平均労働生産性は3,155千円/人**と約半減する低い値となり、**業種では運輸業や建設業は4,000千円/人を超え及第点**と言えるが、**宿泊業や飲食サービス業は1,074千円/人と著しく低い値**となり効率性が大変悪い状況である。

* 産業構造マップ→産業構造分析→付加価値額の構造分析

出典：総務省・経済産業省「経済センサスー活動調査」

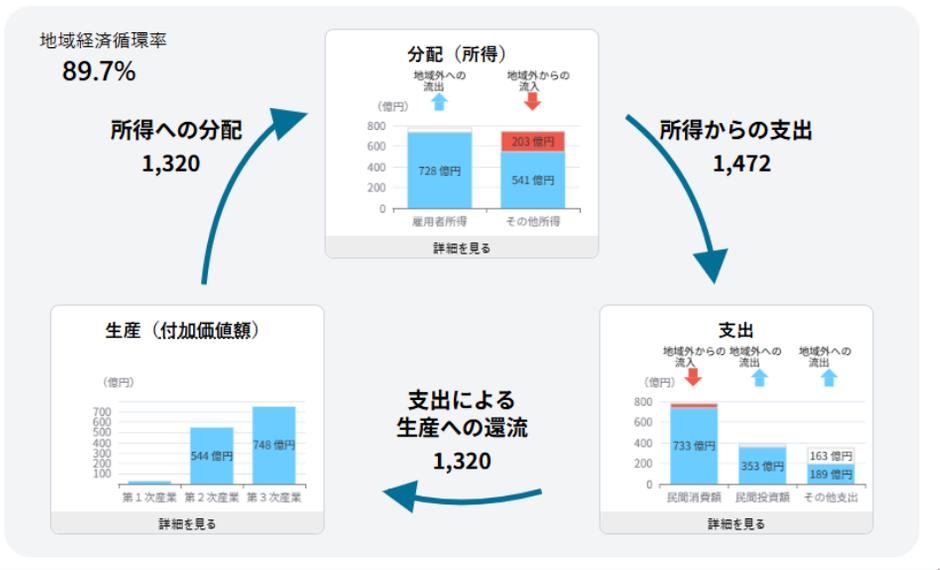
地域経済循環

地域経済循環図

(2022年)

地域内の活動を通じて生産された付加価値は、労働者や企業の所得として分配され、消費や投資として支出されて再び地域内に還流する。この流れを示したものが地域循環図である。これによると南丹市は1,320億円の付加価値を生み出しているが、所得からの支出1,472億円より少なく、稼ぎが市外に流出していると言える。

* 地域経済循環マップ→地域経済循環分析



出典：環境省「地域産業連関表」、「地域経済計算」(株式会社価値総合研究所(日本政策投資銀行グループ)受託作成)

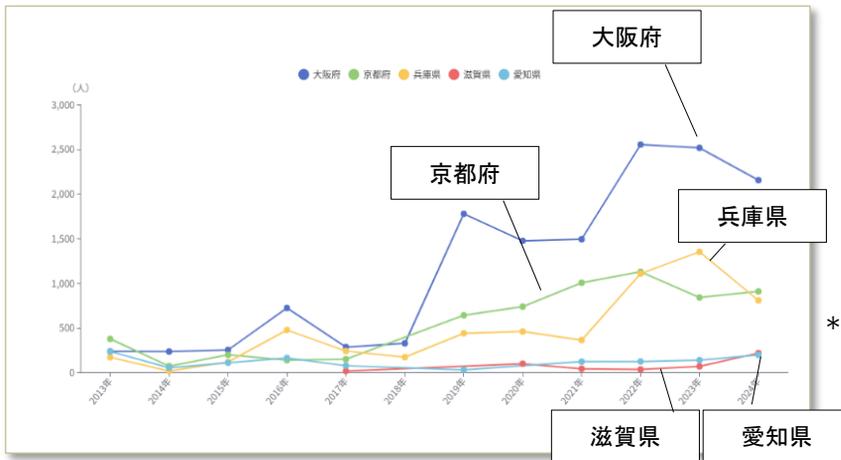
観光

居住都道府県別延べ日本人宿泊者数の推移 (2024年)

南丹市で宿泊された上位居住都道府県別の延べ宿泊者数(日本人)の推移である。大阪府は前年2,515人のところ、2,154人と減少したが高い数値を示す。京都府は前年より増加し909人と兵庫県809人を上回っている。

* 観光マップ→宿泊者分析→居住都道府県別

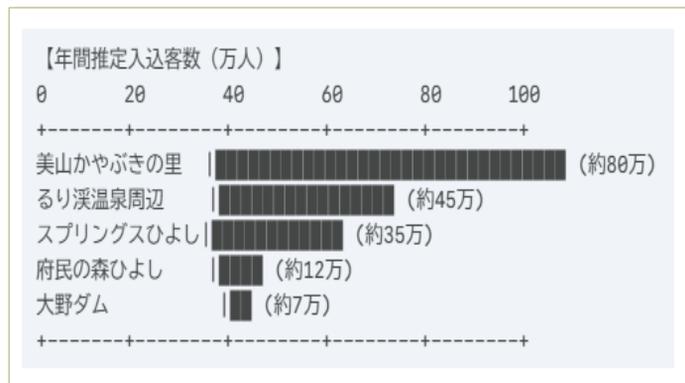
出典：観光予報プラットフォーム推進協議会「観光予報プラットフォーム」



南丹市推定入込客数ランキング (2025年)

本グラフは、南丹市の主要観光施設における「年間推定入込客数」を比較したもの。最大の特徴は、世界的な認知度を持つ「美山かやぶきの里」が約80万人と突出しており、市全体の観光を牽引している。次いで、温泉やグランピング等の滞在型レジャーが充実した「るり溪」と「日吉ダム周辺」が、安定した集客ボリュームを維持している。北部(景観)と南部(体験)で需要が二極化している。

出典：京都府観光入込客等調査報告書(令和6年版)および各旅行予約サイトの検索・動向データを基に作成。



一部を除き、この経済分析は「RESAS」を活用

作成：南丹市商工会

RESAS(地域経済分析システム)は、地域経済に関する様々なデータをグラフでわかりやすく「見える化(可視化)」するシステムです。地域の実情をビジュアルに把握・分析できます。誰でも無料で使えます。

〒629-0141 京都府南丹市八木町八木 東久保28-1
TEL: 0771-42-5380 FAX: 0771-42-5734
URL: <http://nantan.kyoto-fsci.or.jp/>